

ネギコガ *Allium leafminer (Acrolepiopsis sapporensis)*

【見分け方】

ふ化幼虫が葉肉内に食入し葉の内側から食害する。食害部は始め小白点や不規則なすじ状の斑紋ができ、食害が進むと白斑が透明斑となる。幼虫は成長すると葉に円い孔をあけ表面に出て繭を作りその中で蛹化する。

【発生生態】

ネギ属の植物だけを食害し、葉に点々と産卵する。4月から10月まで発生し、北日本でも越冬しており、年間5世代前後発生する。幼虫は前後に細まる紡錘形で淡緑色に褐色の縞がある。5齢幼虫は十分に育つと体長7～8mmになる。

成虫は体長4.5mm前後で、全体が灰黒色で前翅の後縁中央に白色斑があり、静止すると背面中央に鮮やかに目立つ。各形態ともコナガによく似ており、特に繭は酷似する。



ネギコガ幼虫



